



筆

阪大工学部での頃を思い出して

佐 野 忠 雄*

昭和58年もおしつまり12月31日となりました。心安らかに日々を送っている人間が下手な文章で思いつくまま書きました。

(i) 環境S教授の思い出

小笠原先生の学部長時代にはいろいろのことがありました。今でも眼に浮ぶことがございます。いつの年だったか思い出せませんが環境工学の教室は慎重に協議され当時京大工学部の教授でいられたS教授を環境工学に迎え入れることを決められました。そしてその年の7月の阪大工学部教授会で審議してほしいと議題を提出されました。ところが京大からそんな話は聞いていないという大変な御立腹をうけました。これは阪大京大工学部間の大きな問題になると学部長も伊倉さんも少々弱っておられる状態でした。たまたま私は御相談をうけまして、当時の環境工学の主任のH教授がお困りなら何とか協力申し上げたいと思いましたし、またS教授が阪大に来て下さる意志が強ければ円満に解決しないといけないと考えたわけです。ところで今の京大工学部長は誰方かと尋ねましたところ、桐栄教授だと言われるのです。桐栄教授なら、京都時代隣同志で住んでいましたので、よく話し合ってみましょうということで、早速連絡をとりました。次の日、雨の中H教授と京大に行き、桐栄学部長はじめ衛生工学の教授方と一日話し合い誤解もとけ円満解決の話し合いの道筋も決め解決しました。これは阪大京大の工学部にとって本当によかったと今でも思っています。その間の環境工学の先生方の真面目な態度またこの上なく喜んで下さった小笠原先生のお顔が今も思い出されます。

(ii) この話はまるっきり変わります。

小笠原先生の学部長時代名古屋で8大学工学

部長会議があり、私がお伴しました。会議のあとの2日目豊川稲荷に参りました。ゴルフの出来る方は朝早くから出かけられまして、小笠原先生もその方に参加されました。豊川稲荷では一人一人参拝の方の名前を呼んでその人の健康その他を祈って下さるのです。ところが私は小笠原先生の代返をしたわけです。そうすると人数を数える人がいて一人足りないという。これには困って正直に申しましたら大学の先生ともあろう人が困りますねと多くの方の前でしかられました。皆様その場は笑いですがさせて下さいましたが、神様での前でも善意は通じないのですね。

(iii) 戸倉先生の思い出

戸倉先生がプロセス工学専攻をつくられる時はじめは化学工学専攻という名を考えておられました。御相談をうけた時、私は化学工学ならば基礎工にありますし、横文字にされたらと申しました。それではどういふ横文字といわれるのでプロセス工学ではと申しましたところ、それはより広い結構だと申されまして、その名が今もあるわけです。独立専攻は学際的ということで大きな意味をもって工学部に出来たわけです。電磁エネルギー専攻共各学科と同じく独立の教室として皆で協力して益々発展させて頂きたいものです。大学院については、大きな希望と計画をもちながら実現せず夢で終ったことを残念に思っています。吉永弘先生の提唱で始った大学院の検討委員会は工学部を刺激し後の国際協力にまで発展したことを考えると、工学部で生活させて頂いた幸せと、数々の思い出が今も頭の中を通り過ぎることがございます。

(iv) 次はまたまた全く変わりますが、戸倉先生が学部長になられた時、早速阪大工学部の当番で8大学工学部長会議をやることとなりました。さて会議のあと何処を見学するかというこ

*佐野忠雄 (Tadao SANO), 大阪大学名誉教授

とになりました時、私は犬養孝先生にお願いして明日香めぐりはどうでしょうと申しましたら大変喜ばれました。当日犬養先生はよくやって下さいました。この計画は出席の方々に大変好評でした。石畳もアマガシの丘も目に浮びます。バスの中での戸倉先生の歴史に詳しいことには感心しました。御退官後“カニツァローの生涯”(化学の始め)という本をお書きになりましたが、あれだけの内容のものを文章も上手に書ける人はいないと思います。

(v) その他

工学部が発展し得る小笠原・戸倉先生時代を過ごさせて頂いたことを感謝しています。また退官の年には山村総長の御配慮でR・Iセンターもつくって頂きました。過去をふりかえるよ

うになったのも年のいったせいでしょうか。工学部は専門の異なる多くの方が一緒に暮しているのです。それだけに学部長をたすけ、協力し合えば益々発展するでしょう。

また逆にいがみ合えば分裂をくりかえします。工学部の安全発展基準をすべての人が心掛けねばならないと思います。人を平気で傷つける方も今まで多くの方の善意に助けられて今日があることを常に考えてほしいものです。“雪の日に友去りぬ道なお白し”研究に教育に全力をつくしおしまれながら、なつかしがられて、いつか来る工学部を去る日を迎えられるように一日一日を送って下さい。1月中旬家内と娘と三人で越前のカニを食べ水仙を見にゆくことを楽しみにしています。